

Association between geriatric nutritional risk index and stroke risk in hemodialysis patients: 10-Years outcome of the Q-Cohort study

恒吉, 章治

<https://hdl.handle.net/2324/4784718>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 論文博士
バージョン :
権利関係 : (c) 2021 Elsevier B.V. All rights reserved.

氏名： 恒吉 章治

論文名： Association between geriatric nutritional risk index and stroke risk in hemodialysis patients: 10-Years outcome of the Q-Cohort study

(血液透析患者における、geriatric nutritional risk index (GNRI)と脳卒中リスクの関連： Qコホート研究10年予後調査)

区分： 乙

論文内容の要旨

血清アルブミン値とボディマス指数 (BMI)から計算される栄養指標マーカーであるgeriatric nutritional risk index (GNRI) は、血液透析患者において心血管疾患のリスク上昇と関連することが報告されているが、GNRIと脳卒中発症との関連を調べた研究はない。今回我々は、血液透析患者の多施設観察コホートであるQコホート研究を用いて、GNRIと脳卒中発症との関連を検討した。3045人の患者が登録され、主要評価項目は脳梗塞と脳出血の発症とし、主要な暴露因子はベースラインのGNRIレベルとした。患者はベースラインのGNRIレベルに基づき、Q1、<90.7; Q2、90.7~95.5; Q3、95.6~99.8; Q4、> 99.8と四分位数で四群に分けられた。脳梗塞および脳出血の発症リスクは、多変数調整Cox比例ハザードリスクモデルと制限付き3次スプライン曲線を使用して推定された。10年間の追跡期間中に、326人の患者が脳梗塞を発症し、149人の患者が脳出血を発症した。Cox比例ハザードリスクモデルでは、Q4群に対してQ1群で脳梗塞および脳出血の発症リスクが有意に高く、ハザード比 [95%信頼区間]はそれぞれ1.49 [1.05-2.12]と1.89 [1.11-3.20]であった。制限付き3次スプライン曲線においても、GNRI低下が、脳梗塞と脳出血の両方のリスクの増加と関連した。これらの結果より、GNRI低値が、維持血液透析患者の脳梗塞と脳出血に対する独立した危険因子であることが示唆された。